

# 例会報告

## Rotary

高山西ロータリークラブ



17-18 年度会報月間写真 お城シリーズ  
11 月 神岡城 ③ 新井 典仁

第 2630 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1966 年 1 月 15 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988  
大垣共立銀行 高山支店 4F
- 会長 米澤 久二
- 幹事 鴻野 幸泰
- 会報委員長 新井 典仁

### <会長の時間>

11/19 日濃飛グループの IM が美濃加茂シティホテルで開催されました。朝早くから多くのメンバー皆様に参加していただきありがとうございました。他の 6 クラブの活動状況を勉強し一層の親睦を深めることができたとします。とても楽しい時間を過ごせたと思います。来年は高山西クラブが IM のホストクラブとなります。内田次期ガバナー補佐や古橋 IM 実行委員長を先頭として IM 成功に向けてクラブ全体で頑張ろうと思います。よろしくお祈りします。



今朝のテレビで山一證券の話をやっていたので山一證券のお話をしようと思います。「私らが悪いんです。社員は悪くありません」と、山一の野澤社長の衝撃的な会見があったのが今からちょうど 20 年前の今日 11/24 日です。テレビではなんと現在、旧山一の職員によって『山一證券』の名前の会社が復活していることを放送していました。この「山一證券」の名前も商標登録されていました。山一は多くの優秀な職員に恵まれ、愛社精神も強い会社と世間では言われていました。今、山一の名前を復活させるほど、元社員にとって、とてもいい会社だったと思います。元山一職員の同期会の模様も放送されていました。愛着のない会社なら元職員が再結集なんかしません。社員は悪くないけど経営者が悪かった、まさにそのとおりだと思います。元職員さんが新聞で言っていました「山一は組織をオープンにしておけば、こんなことにはなかった」と。言うことは簡単ですが、なかなか難しいですね。

20 年たっても日本では東芝の不正会計事件等経営者の不正によって会社が苦境に陥る事件が相次いでいます。粉飾決算の主な動機は会社を守りたい、経営者の地位をまもりたい、ですが、どちらかという会社を守りたい、より地位を守りたいが強いと思います。日本人の文化として「隠す文化」があるといえます。一子相伝、秘伝とかよく言いますが、都合悪い情報を隠すこと、これが日本人の「隠す文化」の表れだと思います。「隠しても」「隠しても」いつかは何かの機会に露呈します。本当に会社を守りたいのであれば情報を早めにオープンにすることが大事だと思います。経営者にとって都合な情報をオープンにすることはなかなかできないと思います。剣が峰に立つ会社経営を守る、その困難さを乗り越えるのは会社を愛する社員や取引先だと思います。山一でも早めに対応し全社、力を合わせれば、どうにか乗り越えることができたかもしれません。

ロータリーの 4 つのテストの一つ「みんなのためになるかどうか」、ロータリーの教えは深いと思います。

### <幹事報告>

#### ◎ガバナー、地区青少年交換部門委員長より

- ・派遣学生受入学生オリエンテーションおよび春期受入学生修了証書授与式開催のご案内

日時 12月17日(日) 午前 11:00~  
場所 岐阜都ホテル  
出席要請者 受入学生、カウンセラー

#### ◎派遣交換留学生 萱垣 杏花さんより

- ・近況報告

#### ◎高山市市民活動部生涯学習課長より

- ・高山市文化芸術鑑賞事業「日本舞踊への誘い by 五耀會」の開催について(お願い)

日時 12月17日(日) 午後 2:00 開演  
場所 高山市民文化会館 大ホール  
入場料 一般 1,000円 18歳以下無料

### <受贈誌>

- 下呂 RC (会報)、米山記念奨学会(ハイライトよねやま 212)、高山デンバー友好協会(第 16 次高校生デンバー訪問団派遣者レポート)

### <出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	33 名	3 名	36 名	40 名	90.00%
本日	34 名	—	34 名	40 名	85.000%

### <本日のプログラム> 濃飛グループ IM 報告

古橋 直彦

まず「ガバナー補佐とは」のおさらいです。国際ロータリー 2630 地区は岐阜県と三重県の 76 クラブ構成され、そこからさらにグループ分けがなされています。

岐阜県は岐阜、西濃、東濃等 6 つにグループ分け、高山や美濃

太田近辺の 7 クラブは濃飛グループに属しています。暫らく前までは 8 クラブでしたが現在は 7 クラブとなっています。

以前「グループ」ではなく「分区」と言っていた時代があり、今の「岐阜県濃飛グループ」は「岐阜県第 5 分区」、「ガバナー補佐」も「分区代理」と言われ、退会なさいました山善さんも「第 5 分区山本分区代理」と呼ばれていました。



# 例会報告

その「ガバナー補佐」「アシスタントガバナー」ですが、選出にあたっては濃飛グループ7クラブから順に選出されガバナーの補佐の任にあたられています。記憶にあたらしいところでは一昨年高山クラブから洲岬さんがAGをつとめてみえましたし、昨年は可児の長瀬先生、今年は美濃加茂RCの井尾さんがAGとして西クラブにも何回か訪問をされています。

次年度、門前年度の2630地区ガバナーは岐阜加納クラブの木村さんという東大法学部卒の弁護士さんです。そしてその補佐にあたる6人のAGの内、濃飛グループは当クラブの「内田さん」です。

次にAGの大きな仕事の一つにIMがあります。IMとはインターシティミーティングの略で、AG輩出のRCがホストクラブとなり執り行い、濃飛グループが一堂に会し「会議」「研修」「懇親等」を目的とした集まりです。「ガバナーではなくAGが招集する」集まりです。そのIMの開催時期には毎年10月頃に開催されています。来年は10月28日(日)高山グリーンホテルでの開催を予定しています。

具体的には1部の式典・研修と2部の懇親会で構成されています。凡そのタイムスケジュールは、1部 10:00 開式・セレモニー、10:30 主に講演会(約90分)。2部 12:30 懇親会、15:00 閉会。

IM1部での研修内容ですが過去、講師による講演が多かったです。

- ①下呂RCで上野田さんがAGの時：萩原出身 元検察官・弁護士で当時プロ野球コミッショナーの熊崎勝彦さん
- ②元三重県知事 北川正恭(まさやす)さん
- ③洲岬AGのときはバスターガバナーで陶芸家の加賀さん
- ④講演以外では東日本の震災後、津波の流木からつくられたヴァイオリンの演奏もありました。

西RCがAGを輩出した時は

山本善一郎さん・郷土史家の方の話

小森丈一さん・・・Rメンバーによるパネルディスカッション

伊藤松寿さん・・・数学者杉原厚吉さんを講師に「ぼんち絵の世界

来年10月28日まで時間がある様ですが、今年中には研修会の内容も詰めなければなりませんし、2部の懇親会でのアトラクションも考えなければなりません。

参加予定者数は150~170人、西クラブが受付、会場案内、式典設営進行、懇親会運営等にあたりますので、組織作りも始めなければなりません。次年度、門前年度の人事も着々進んでいます。7月門前・田中丸の出港後10月28日のIM終了までは、クラブの役職の他にIMの役職と1人何役もこなして頂く事になると思います。会員の皆様の絶大なるお力添えをお願いします。



## 大村 貴之

先日、19日に濃飛グループのインターシティミーティングに参加させていただきました。研修会を中心に報告します。

今年度のRI会長 イアン・ライズリー氏は、『ロータリー：変化をもたらす』をテーマとし、2630地区 田山雅敏ガバナーは、『未来を創造しよう・・・10年後のロータリーは・・・』をテーマとされており、今回のIMでは、『10年後のクラブのあるべき姿』をテーマに各クラブの会長が現在の姿・3~5年後の姿・10年後の姿を考え、発表がありました。

当クラブの米澤会長は、現在の姿・・・継続活動とし、ミニソフトバレーボール大会の協力・義務教育9ヵ年表彰・交換留学生などがある。

また今年度は『わくわくするロータリー活動を』をクラブテーマとし全員の創意工夫により、新たな取り組みにも挑戦し、夜間例会やクリスマス家族例会などを計画・実施している。会員増強にも力を入れ、毎月1回程度の会員増強委員会会議を行い、会員候補者の情報交換を行っている。

3~5年後の姿・・・会員45名(現在40名毎年純増1名以上)、CLPの導入

10年後の姿・・・『ガバナーを出せるような 足腰の強いクラブにしていく』

当クラブのあるべき姿を分かりやすく明確に発表されました。会員が今回の発表された「クラブのあるべき姿」を目標に、それぞれの活動を積極的に取り組んでいきましょう。



## 下屋 勝比古

11月19日は、今シーズン最低気温にもかかわらず、出発に時間に遅れる方もなく順調に出発しました。道中は、問題なく時間より早く到着いたしました。

会場は美濃加茂シティホテル。5年前と同じ会場で美濃加茂クラブのホスト

で開催されました。

今回のテーマは、アシスタントガバナーの提案で、各クラブの現在、少し先、そして10年後の姿についてそれぞれ発表されました。発表方法は各会長のオリジナリティ溢れる方法が印象的でした。

スケッチブックにグラフを書かれた中央の中田会長や、マイクパフォーマンスのみで乗り切った会長もみえました。可児の会長は、可児市の人口動向などを熱心に語り、ロータリーの活動に深く関係あるのだろうか?と言うような内容にとられかねない主張もありました。

まあ、今後の展望については、どのクラブも同じ内容でありましたが、わが西クラブの「将来ガバナーを出せるような体力をもつように」という言葉にかなり感銘を受けました。

懇親会は、美濃加茂クラブの50周年記念式典もかねての会となり、台湾国家が2回流れる中、1時間半の懇親会でさっさと帰りました。二次会には参加できませんでしたが、さぞ盛り上がった二次会だったことと思います。来年は、10月28日「高山グリーンホテル」で開催が決定され我々がホストとして実行することとなり、これから団結して準備をしていけないと大変な使命を感じた1日になりました。



## 内田 幸洋

7月から既に3回、この11月と12月に各1回、今年だけで5回AG研修を受ける事になっています。ロータリー歴30年、会長までもさせて頂いた身にもかかわらず、研修内容が高度で難しく、私の頭で理解できるか、また各クラブに行ってスピーチできるか本当に心配になって来ました。しかし一旦引き受けたからには、皆様のご協力を得ながらなんとかやり遂げたいと思っています。この度のIMに参加して、決意を新たにしました。よろしくご協力の程お願い申し上げます。

# 例会報告



ロータリー：変化をもたらす

# 例会報告

## <ニコニコボックス>

### ●米澤 久二さん、鴻野 幸泰さん

先週の日曜日、美濃加茂でのIMに参加された皆様、朝早くからお疲れ様でした。他クラブの状況を知ると共に親睦を図れた思い出に残るIMでした。来年度高山西クラブがIMのホストクラブとなりますが、内田次期ガバナー補佐、古橋IM実行委員長さん先頭にIM成功に向けて頑張りましょう。

### ●古橋 直彦さん、田中 武さん、門前 庄次郎さん、田中 正躬さん、田邊 淳さん、松川 英明さん、榎坂 純一さん、高桑 光範さん

11月19日にシティホテル美濃加茂で開かれた2630地区濃飛グループIMにご参加の皆様お疲れ様でした。本日は内田さん、古橋さん、下屋さん、大村さん、報告をよろしくお願ひします。

### ●小森 丈一さん

- ・家内の誕生日にお花を届けて頂きありがとうございました。
- ・14日には皇居で天皇陛下の拝謁を受けねぎらいのお言葉を頂き感激して帰って来ました

### ●岡田 賛三さん

来週30日午後10時ギフチャンにて、カンブリア宮殿放映です。宜しかったらご覧下さい。

### ●井上 正さん

先週17日の移動例会には多くの会員の皆様にご参加戴き誠にありがとうございました。座布団クッションもお陰様で完売となり、また多くの商品もご購入いただき大坪さんも喜んでおられました。就労につきましても是非何なりとご相談下さいと言付かっております。どんな事でもぜひ大坪さん宛ご連絡下さいませようお願い致します。

### ●向井 公規さん

本日、新年家族例会のご案内を配布させていただきました。お忙しい時期かと思いますが奮ってご参加いただけたいと思いますのでよろしくお願い致します。

### ●住田 泰典さん

先程私の会社の経理担当が1FのOKBのATMに通帳を忘れていった様で、その通帳をすぐ後にATMに来られた杉山さんに拾ってもらいました。感謝!!

### ●山下 直哉さん

明日から交換学生のノエミさんが我が家へやってきました。ほぼ用意出来ましたが初めてなので家族でてんやわんやしています。少しでも楽しく生活出来るようにしていきたいと思っていますのでよろしくお願い致します。

### ●堺 和信さん、向井 公規さん、下屋 勝比古さん、山下 直哉さん、

### 黒木 正人さん、杉山 和宏さん、大前 克秀さん

青少年交換留学生の萱垣杏花さんが2軒目のホストファミリー宅に移りました。新しいホストファミリーには日本料理店に連れて行ってもらったり、サッカー観戦に連れて行ってもらったりとエンジョイしているようですが、日本料理を食べたら少し日本が恋しくなったということです。1年間素晴らしい経験をして頂く事を期待しています。

## 派遣交換留学生 萱垣 杏花さん 近況報告

作成日 2017年10月28日

第一ホストファミリーから第二ホストファミリーへと移動しました。

荷物を詰めるのが思っていたよりも大変でした。

第一ホストファミリーとの最後の夜は、市街にある日本食レストランへ連れて行っていただきました。

久しぶりに食べる日本食はとてもおいしくて、少し日本が恋しかったです…

荷物は最小限にまとめたので、ホストマザーは以前ホストした子と比べるととても少ないと言って驚いていました。



新しいホストファミリーとの初めての外出は、サッカー観戦でした。初めて観るサッカーの試合はルールは曖昧でしたが、とても興奮して、すぐに好きになりました。



驚いたのは、応援と同じくらいブーイングが多いことです。日本人目線だと、敵だとしても人が陣壇だら心配したのですが、私の周りでは全員がその敵チームの選手にブーイングを送ったので、驚きが隠せず、ホストマザーに「なんで!なんで!」と尋ねていました…文化の違いはスポーツからもよく感じ取れました。